

宮崎学園 インターアクト部

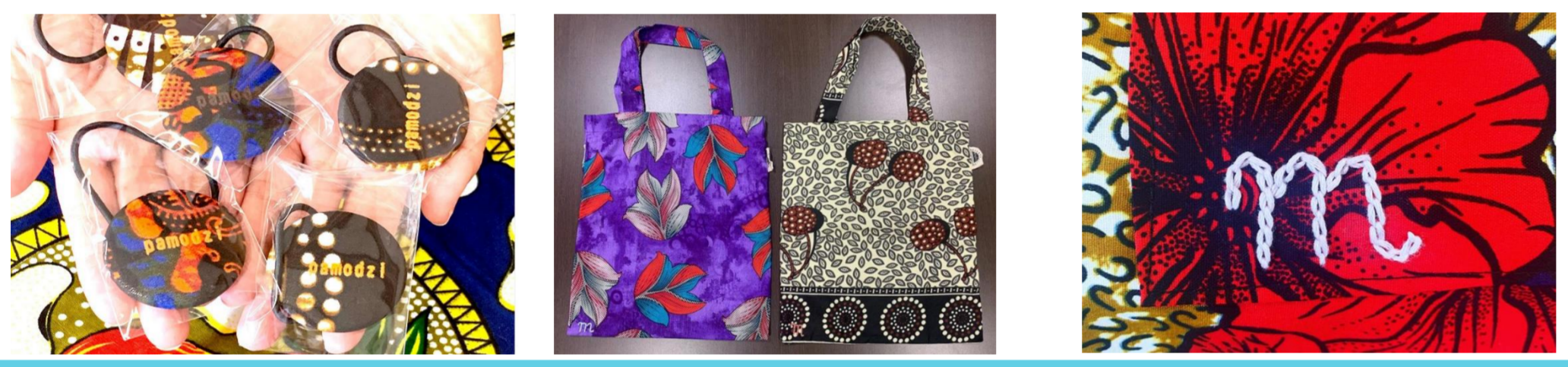
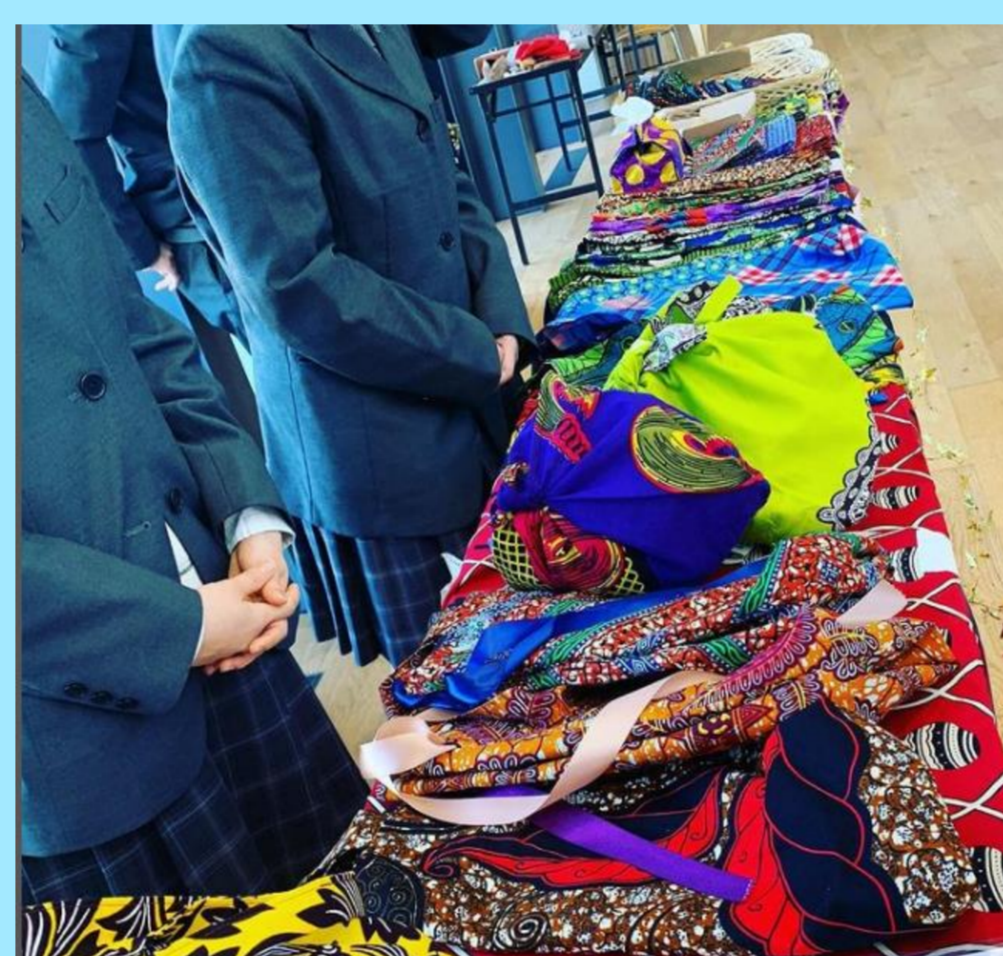
高校生ボランティア・アワード2022

活動概要 「keep on trying」

世界で4番目に貧しいと国、マラウイ。わたしたちはマラウイの伝統的な布を使って、バッグを制作してもらい、日本で販売する活動をしています。バッグの制作を依頼するにあたって、現地の方の交通費や材料代など、先に支払わなくてはならないお金があり、会ったことのない方に、大きな金額のお金を渡すことなどに、不安もありました。しかし、学びを深め、リモートで交流を重ねる中で、信頼関係を築き上げてきました。作っていただいたバッグは、日本に到着後、私たちが一つ一つ丁寧にマラウイと宮崎学園の頭文字の「M」を刺繍して、SNSを通じて発信し、販売しています。

また、昨年度から、私たちは新たな取り組みをスタートさせました。それは、就労継続支援B型事業所の方の製作したバッグの販売です。これは、マラウイ布で作られています。私たちにとって思い入れのある国「マラウイ」。マラウイだけでなく、国内の人と一緒にみんなでhappyに！を目指しています。扱っているリボンバッグは、いつもすぐ完売してしまうほど好評です。

世界情勢が厳しい現在、思うように前に進めなくて焦ることもあります。こんなときだからこそ、視点を変えたり、別の方向からのチャレンジを続けていきたいと思っています。



「It's not support, It's business.」

活動の目的・志など

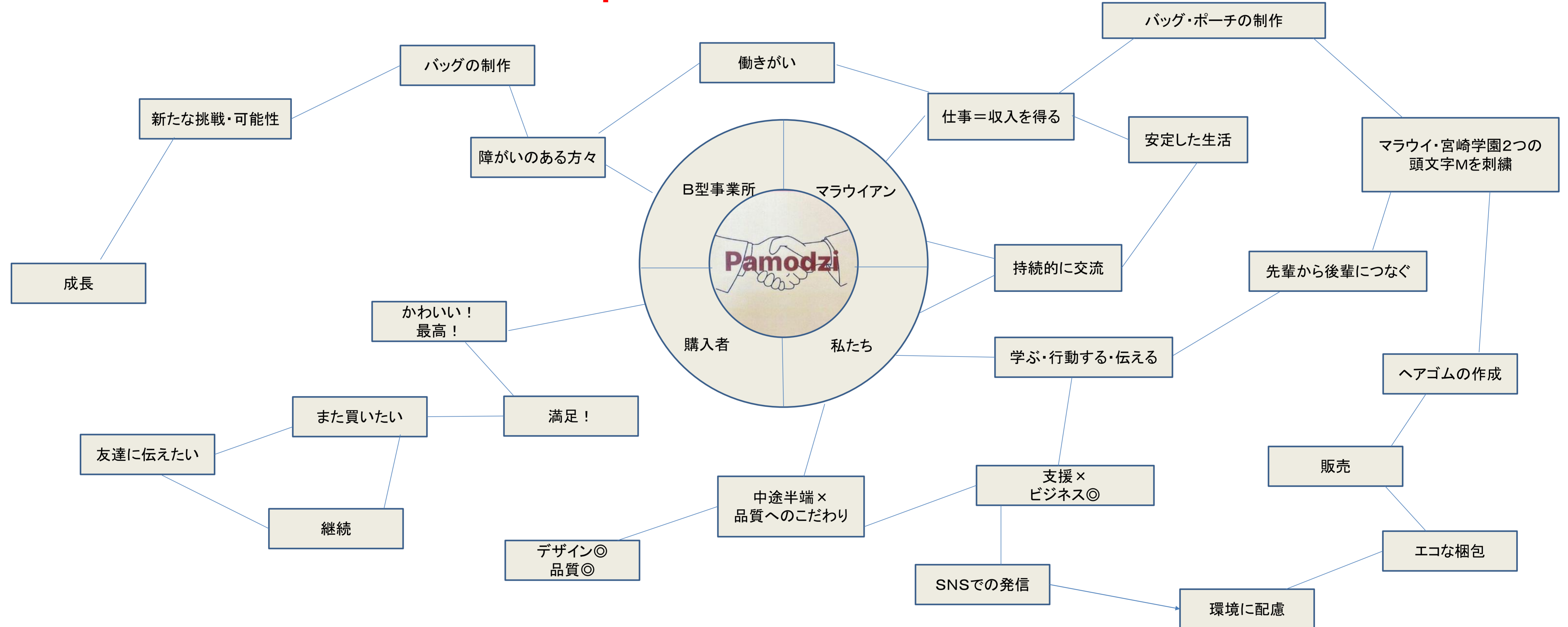
私たちの活動名である『pamodzi』は、マラウイの公用語であるチェワ語で、「ともに」を意味する言葉です。私たちと、マラウイアンが「共にhappyに！」なれることを目指しています。

私たちの活動の特徴は、「支援」ではないということです。

過去に、先輩方がチャレンジし、失敗したのを見直す中で、「支援」優先の案は、持続していけていないことに気が付きました。「支援」を優先すれば、「する側」だけでなく、「される側」にとってもよくないことも学びました。マラウイアンが、支援慣れをしてしまうと、働く気を失ってしまいます。そのようなことは私たちは望んでいません。一方的な支援ではなく、双方向で納得をしながら進んでいきたい。そう考え、私たちは、中途半端な気持ちを捨てて、対等な関係の中で、商品に向き合っていくために、「ビジネス」という方法を選ぶことにしました。



「pamodziとのつながり」



「ミヤガク×SDGs」

今後の展望・夢など

先輩たちから受け継いできた、マラウイの方々との「バッグを通したビジネス」を、これからも継続・発展させていきたいです。また、現在、マラウイの2つの団体と、国内1ヶ所の事業所と活動を行っていますが、それぞれの団体についての学びを、もっと深め、相手を理解した活動を行っていきたくたいです。また、フェアトレードにも興味を持っています。

コロナ禍となり、さまざまな活動に制限がかかりました。マラウイから発送した荷物が到着するまでに半年ほどかかったり、戦争がはじまり、航空便が飛ばなくなったりと、バッグの販売を通して、世界を身近に感じるが増えました。世界には、日本を含め、解決しなくてはならない課題が多くあります。そのことに対して、「じぶんごと」として捉え、何ができるか考え、行動できる人でありたいと思っています。先日、SDGsについての勉強会を行いました。視点を変



集合写真



活動団体プロフィール

私たち宮崎学園インターアクト部は、1年生16名2年生4名3年生15名の計35名で活動しています。主な活動としてはマラウイ布を使ったバッグやポーチの販売活動や地域でのボランティア活動などを行っています。他にも様々な分野の方のお話や講演を聞くなど、日ごろから多くのことを学んでいます。またSDGsを多くの人に知ってもらうために、校内放送などもしています。現在はコロナウイルスの影響で思うように活動できていませんが、自分たちでできることを地道に行っています。